

茶病虫害防除情報

令和8年6月19日

【第6号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

夏茶の品質向上・安定生産のための

二番茶芽生育期の病虫害防除対策

早場産地では二番茶芽の摘採も始まりました。今回は夏茶の品質や収量に影響する二番茶芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。

☆ 病虫害の発生概要

◎ 炭疽病・・・「多」 輪斑病・・・「並」

炭疽病の昨年秋芽生育期発病の越冬病葉は多く、5月の県病虫害防除所の調査では、新発病葉数は平年に比べてやや多い状態でした。発生源は多く、二番茶芽の生育期は梅雨の時期となり、感染の機会が多くなるため注意が必要です。

◎ チャノミドリヒメヨコバイ・・・「多」 チャノキイロアザミウマ・・・「並」

これから発生が多くなる時期になります。一番茶期までの発生は多～やや少の発生でしたが、その後気温が上り、両害虫ともやや増加しています。梅雨期間中に晴天傾向の天気が続くと多発生し、二番茶芽に被害が出ることもあるため注意が必要です。

◎ チャノホソガ・・・「発生量 多」

5月の県病虫害防除所の調査では、平年に比べて発生は場率は高く、葉巻数は並、誘殺虫数は多くなっています。二番茶萌芽～1葉期頃に産卵、葉潜り状況を観察し防除要否を判断します。発生時期と新芽生育期が合う茶園では発生が多くなる場合があります。

☆ 基本的防除対策

この時期は品種、芽の生育状態、病虫害の発生状況に対応し、基幹防除になります。いずれの病虫害も萌芽～1葉期頃が散布適期です。「やぶきた」園などは混用散布により病害も同時防除します。また、この時期は萌芽から摘採までの期間が短く、気温の上昇で芽の生育が早まることがあるので使用基準の摘採前日～10日前に使用できる薬剤を選択し、適期散布します。

また、最近、一部薬剤では薬剤耐性菌や害虫の感受性低下が地域によって生じていますので、地区の栽培暦に採用されている薬剤で防除します。

◎ 炭疽病 輪斑病・・・降雨が多いときは注意 降雨前の予防防除が基本

炭疽病は特に「やぶきた」園などは梅雨入りで発生が多くなりますので防除が必要です。摘採葉への発病葉混入を防ぎ、摘採残葉として残る下位1～2葉を守るよう萌芽～1葉期の降雨前にクローブシールドやムッシュボルドーなどでの予防防除が基本です。輪斑病は摘採・整枝作業で感染するので、刈番茶摘採や整枝後出来るだけ早く薬剤散布して防除します。直後散布で有効な薬剤と3日後までの散布で有効な薬剤があるので注意します。

◎ **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ**・・・雨が少ないと多くなる

梅雨入りが遅れ、晴天が続くと多くなります。芽の生育初期に加害を受けると被害が大きくなるので萌芽期頃の防除が最適です。チャノホソガ、炭疽病などと同時防除する場合は萌芽～1葉期に防除するとよいでしょう。ネオニコチノイド系や IGR 系薬剤など一部薬剤で感受性が低下していますのでウララ DF、など地区栽培暦採用薬剤で防除します。

◎ **チャノホソガ**・・・品質への影響大

1葉期頃に産卵・幼虫の葉潜り状況を見て防除を判断します。多くみられる園では1葉期頃に防除します。2～3葉期以降に産卵がみられ、10日以内に摘採予定の園では被害は回避できますので防除の必要はありません。これまで使用されてきた IGR 系剤の脱皮阻害剤、(ノモルト、カスケード)、脱皮促進剤 (ファルコン) およびジアミド系剤(サムコル、エクシレ、テッパソ)で感受性が低下している地域ではディアナ SC など地区の栽培暦採用薬剤で防除します。

☆ **二番茶芽生育期の病虫害防除法**

病虫害名	薬剤名	希釈倍数(倍)	使用時期・回数	使用上の留意事項
炭疽病	クプロシールド	500	前日 1回	・クプロシールド、ムッシュボルト、クミカート SC、Zボルトは米国輸出茶栽培園および有機栽培園にも使用可。 ・アミスター20フロアブルは輪斑病にも登録有り。
	ムッシュボルト	500	7日前 1回	
	クミカート SC	500	前日 1回	
	Zボルト	400	7日前 1回	
	アミスター20フロアブル	2000	14日前 3回	
チャノキイロアザミウマ	ウララ DF	1000～2000	7日前 1回	・薬剤抵抗性を考慮し、同一系統薬剤使用は年1回とする。 ・ウララ DF は米国輸出茶栽培園に使用可。
チャノミドリヒメヨコバイ	エクシレ SE	2000	7日前 1回	
	テッパソ液剤	1000	3日前 1回	
チャノホソガ (サンカクハマキ)	ディアナ SC	2500～5000	前日 1回	・1葉期頃が散布適期で、葉裏へ産卵・幼虫の葉潜り状況を確認し、防除する。 ・ディアナ SC、ファルコンフロアブルは米国輸出茶栽培園に使用可。 ・薬剤抵抗性発現の地域があるので地区栽培暦採用剤で防除する。
	カスケード乳剤	4000	7日前 2回	
	ファルコンフロアブル	4000	7日前 2回	
	ノモルト乳剤	2000～4000	7日前 1回	
	エクシレ SE	2000	7日前 1回	
	テッパソ液剤	1000	3日前 1回	
チャノホソガ (有機栽培園)	チェンアップ 顆粒水和剤 (BT 剤)	2000	前日 1回	・BT 剤は葉縁巻葉期に散布する。三角巻葉減少効果は低い、虫糞を抑制する。 卵・葉潜り幼虫期散布の効果は低い。
	サブリンフロアブル (BT 剤)	1000	7日前 1回	
	スピノエースフロアブル	2000～4000	7日前 2回	

二番茶期に発生する病害虫



チャノミドリヒメヨコバイ被害芽



チャノミドリヒメヨコバイ被害葉



チャノホソガ三角巻



チャノホソガ葉縁巻葉

(巻葉内の虫糞により品質 (水色) 悪化)



チャノホソガ卵



潜葉幼虫

(卵～潜葉幼虫期の薬剤防除効果高い)



摘採残葉に多発した炭疽病

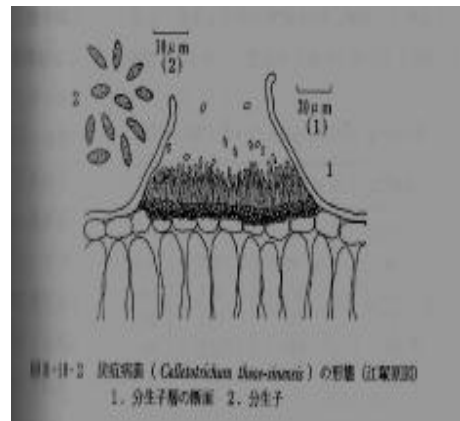


図 8-11-2 炭疽病菌 (*Colletotrichum gloeosporium*) の形態 (江原 昭郎)
1. 分生子層の横断 2. 分生子

炭疽病菌の分生子形成図と分生子